

令和7年度 林業普及週間現地情報

森林管理課

宮古島市有林の現地案内について

9月12日（金）

宮古島市は、森林率が沖縄県平均の47%を下回る16%であり森林資源に乏しい地域であるが、近年、盛んに造林事業を実施し、森林資源の充実化に取り組んできている。特に、本県で建築材として古くから重宝されているイヌマキは、宮古地域では、キオビエダシヤクの食害の影響がなく、宮古島市有林においても良好な状態で生育している。現在進められている、首里城の「令和の復元」では、宮古島内から調達されたイヌマキが一部使用されることになるなど、宮古島市は、イヌマキの産地として期待されている。

今回、首里城復元に携わった吉野銘木販売株式会社と沖縄県首里城復興課の関係者に対して、イヌマキ林を含めた宮古島市有林の現地案内を行った。現地案内の前には、宮古島市の森林・林業の概要と島産材（宮古島市で生産された木材）の説明や吉野銘木販売株式会社における奈良県吉野での森林整備の状況などの情報共有を行った。現地案内では、樹種毎の特徴を説明しながら、「ふるさと文化財の森」に指定されている野原のイヌマキ林など宮古島市内の造林地（樹種：イヌマキ、テリハボク、アカギ）を巡った。

県外では見られない樹種であるため、島産材の板材などを興味深そうにしており、特にテリハボクの杓（もく：製材したときに木目に現れるさまざまな模様）に興味があるようで、島産材のPRに繋がった。

参加者は、奈良県吉野での林業のスケールの大きさに感心しながらも、宮古島市でも100年後、200年後に向けてしっかり取り組んでいこうという意見があり、宮古島市内の林業従事者の意識向上にも繋がった。

引き続き、宮古島での森林・林業を島内外に発信し、島産材の利用促進に繋がるよう取り組んでいきたい。



概要説明の様子



現地案内の様子



テリハボクの杓